



神奈川畜産情報

発行所
神奈川県畜産会
横浜市磯子区西町14-3
畜産センター内
電話 045 (761) 4191
FAX 045 (759) 1162
発行人
長嶋喜満

神奈川県畜産会のホームページ

「かながわ畜産ひろば」[\[http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm\]](http://kanagawa.lin.gr.jp/index.htm)

隔月 1 回（1 日）発行

〔神奈川畜産情報（平成18年 1 月号以降）はホームページでもご覧になれます〕



「家族経営でも収益を確保する」ことを目的に、機械化などによる省力化や労働力の低減により生じた余力を活用し、生産性を向上するとともに魅力ある産業として後継者の確保や高齢化した酪農家の経営期間の延長・新規就農者の確保などを推進し県内生乳生産量を確保し、収益性の向上等に取り組



汚水による手や作業衣の汚れも無



たします。

死亡牛届出連絡先	
連絡先（電話番号、FAX）	所管区域
県央家畜保健衛生所 電話 046-238-9111（代表） 携帯 080-3403-0157 * FAX 046-238-9124	横浜市、川崎市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、相模原市、三浦市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、三浦郡、愛甲郡
湘南家畜保健衛生所 電話 0463-58-0152（代表） 携帯 080-3403-0156 * FAX 0463-58-5679	平塚市、小田原市、秦野市、伊勢原市、南足柄市、中郡、足柄上郡、足柄下郡、 ※藤沢市、茅ヶ崎市、高座郡は県央家保死亡牛保管施設へ搬入

※休日開庁日のみ、死亡牛の届出は携帯電話をお願いします。
休日開庁日の届出は FAX でお願いします。

平成 30 年度 死亡牛届出受付、受入日程

	平成 30 年度 死亡牛届出受付、受入日程						
	月	火	水	木	金	土	日
4 月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
5 月	30						
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
6 月	28	29	30	31			
		4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
7 月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
8 月	30	31					
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
9 月	27	28	29	30	31		
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

☐ 受入日 ☐ 閉庁日 ※検査月齢は 4 8 ヶ月齢以上です

二十九年度 畜産クラスター機械 導入事業の導入事例紹介
27 年度からスタートした畜産クラスター機械導入事業の導入事例について、今回、県内の協議会から資料提供頂いたので、紹介します。この事業は、機械価格の半額が国から助成されるもので、大変有用な事業ですので、掲載事例を参考にされて、事業参加の検討材料にして頂ければ幸いです。

神奈川県酪農収益力 向上推進協議会

《事務局のコメント》

過去十年に酪農家戸数・乳用牛飼養頭数・生乳生産量は約半減しており、その原因として後継者不足・都市化による飼養環境の悪化の他、主な原因として収益の悪化が挙げられます。

これらのことから、本県でも平成二十七年二月に酪農経営の収益力を向上するため、クラスター協議会を設立しました。

「家族経営でも収益を確保する」

ことを目的に、機械化などによる

省力化や労働力の低減により生じ

た余力を活用し、生産性を向上す

るとともに魅力ある産業として後

継者の確保や高齢化した酪農家の

経営期間の延長・新規就農者の確

保などを推進し県内生乳生産量を

確保し、収益性の向上等に取り組

んでいます。

《導入機械名》

搾乳ユニット

キャリーレール・ミルクメーター

自動離脱付

《導入年月日》

平成二十九年九月

《取り組み主体のコメント》

当該機械を導入したことによ

り、搾乳時間の短縮及び労働負担

減が図れた。空いた時間を飼養管

理に充てる事が可能になり、牛群

個々の管理が密にできるようにな

った。空胎期間の短縮等生産性

向上に努めたい。

かながわ銘柄豚肉推進協議会

《導入機械名》

バキュームカー

《導入年月日》

平成二十九年三月二十九日

《取り組み主体のコメント》

畜産クラスター事業のリースを

活用してバキュームカーを導入し

満足している。本場と分場を所有

しているが、分場では、毎日、汚

水槽から汚水をポンプアップしタ

ンクに入れ圃場に運び畑地還元し

ていた。しかし、この汚水処理方

法では時間がかかるうえ、ポンプ

が目づまりするなど作業効率がた

いへん悪かった。バキュームカー

を導入したことにより作業効率は

格段に良くなり、毎日行っていた

作業が、二日に一回、午前中の三

時間程度の作業となり汚水を液肥

として畑地還元できている。また、

汚水による手や作業衣の汚れも無

くなり衛生面でのメリットも大きい。畜産クラスター事業のリースは金銭的メリットが大きく、今後も継続していただくとともに補助対象となる機械の種類の拡充を望みます。

鶏合戦クラスター協議会

《事務局のコメント》

鶏合戦クラスター協議会は、行政を含めあらゆる畜産関係者（行政・農協・畜産農家・畜産関係業者・関係女性）で構成しています。鶏のみで活動しています。

《導入機械名》

今回は、次の機械を導入した事例を紹介いたします。自動給餌機・

自動給水機・集卵装置・換気装置・

清掃機器を一体化（システムキッ

チンのようなもの）した装置を導入

いたしました。

《取り組み主体のコメント》

鶏合戦畜産クラスター協議会の

会員の（谷）です。今回平成28年

度の第1回で認可されました。こ

の機器の導入で期待をしましたのは、

既に先発事例として3例がありま

す。

いずれも、生産性を上げている

ことに注目して同様のシステムを

選定いたしました。未だ鶏卵生産

途中ではありますが、大いに期待

をしています。特に注目をしてい

ますのは、周辺の環境の配慮は、

養鶏場内での乾燥システムです。

搬出する鶏糞は、非常に良く水分

は、低く醗酵が直ぐ始まる状態で

す。生産性は、最後を見ないと確

実には言えませんが、生存率の状

態からこれもかなり期待できそう

です。以上途中経過ですが報告い

神奈川県配合飼料・機械化推進協議会（県配合飼料基金協会）



《導入機械名》

スキッドステアローダー

《導入年月日》

平成二十九年十月

《事務局のコメント》

五年後、十年後の経営を見据え

て、機械化の推進を図るため、今

後も是非事業を継続して頂きたい

と考えております。

《取り組み主体のコメント》

畜産クラスター事業の機械導入

リースを活用してスキッドステア

ローダーを導入しました。

オリンピック選手の仕事は？
働き方改革は本当に改革か？

やっと暖かい三月を迎えました

が今年の冬は寒かったですね。産

卵低下、仔豚の発育遅延、牛舎の

水道凍結等の被害は如何だったで

しょうか。この二月は冬季オリ

ニックの話題で賑やかでしたね。

開催の地はお隣の国「韓国」の平昌

でした。

日本のフィギュアスケートの羽

生結弦選手は氷上をピョンと跳ん

でチャンと着氷して金メダルを獲

得。良かったですね。その羽生選

手を閉会式の行進の時に太い腕で

支え上げている選手がいました。

きつと力持ちの大きな人でしょ

うね。スポーツ選手は皆な体が大き

いのかと思いますや、スピードス

ケートの高木菜那選手は身長155cm

48kgの小柄な女性。大柄なオラン

ダ選手を先行させて風よけに使

新むらすずめ

い、体力を温存して最後の好機を見逃さずに先頭に躍り出て金メダルを獲得。小が大を制しましたね。日本にはもっと小さな選手がい

ました。銅メダル輝くカーリング

の鈴木夕湖選手の身長は146cm。こ

の競技は取っ手の付いた漬物石の

様な物を投げて氷上を滑走させ、

長い柄付きの掃除用具みたいな物

で床掃除する、投げ手と掃き手の

共同作業で目標地点に石を誘導す

る競技です。

掃き手は体力無しでも出来るの

かと思いきや、1試合に2kmもの

距離を掃くそう。この体力をつ

けるために30m×70mの全力疾

走を200×400回もくりかえす練習を

するそう。オリンピックに出場

するような選手の皆さんはトレ

平成三十年度死亡牛の届出受付、受入日程について

これまでの機械に比べて、走行速度の向上、バケット容量の増加により、堆肥の切り返し、運搬等の作業効率が改善。作業効率化により作出された時間を、牛の健康管理や牛舎管理などに充て、有効活用していきたいと思ひます。

（県畜産課安全管理グループ）

平成三十年度の家畜保健衛生所における死亡牛（四十八ヶ月齢以上）の届出受付、受入日程を次のとおり（別表…死亡牛届出受付、受入日程）としましたのでお知らせします。

引き続き、死亡牛 BSE 検査の円滑な実施へのご協力をお願いします。

（県畜産課安全管理グループ）

（忠九朗）

牛マルキン事業

【平成二十九年年度（第3 四半期）十月～十二月販売牛の補填金単価報告】

●平成二十九年年度第3 四半期 十月販売牛補填金単価（精算額） 肉専用種 〇円 交雑種 七二、七〇〇円 乳用種 三五、三〇〇円	★補てん金交付日（概算払） 平成二十九年十二月二十五日 ●平成二十九年年度第3 四半期 十一月販売牛補填金単価（精算額） 肉専用種 〇円 交雑種 六〇、〇〇〇円 乳用種 二二、五〇〇円
---	--

★補てん金交付日（概算払）

平成三十年一月二十六日
●平成二十九年年度第3 四半期
十二月販売牛補填金単価（精算額）
肉専用種 〇円
交雑種 三〇、〇〇〇円
乳用種 二一、二〇〇円

★補てん金交付日（精算払）

平成三十年二月二十六日
一〇月・十一月に交付した概算払額と精算額との差額については十二月精算払と併せて二月に交付しております。（経営指導部倉迫）

肉用子牛生産者補給金制度

平成二十九年年度第3 四半期（二十九年十一月）の指定肉用子牛の品種区分ごとの平均売買価格は次のとおりでした。

黒毛和種 七七三、四〇〇円
交雑種 三九〇、〇〇〇円
乳用種 二五二、一〇〇円
黒毛和種・交雑種・乳用種は保証基準価格、合理化目標価格を共に上回っているため、生産者補給金の交付はありません。

なお、肉用牛繁殖経営支援事業に関しては、「黒毛和種」について、交付はありません。
（一般社団法人神奈川県畜産会）

研究情報

畜産物の高付加価値化の検討

はじめに
畜産技術センターでは、エコフィードの利用推進を図るため、地域で発生する食品残さの飼料化や、特色ある畜産物の開発の検討を行っています。この取組みのなかで、三崎港の「マグロ」を利用した地域活性化について検討することとなりました。

三崎港で水揚げされるマグロは「みさきまぐろ」として広く知られています。
このマグロの加工工程で発生するマグロ加工残さは、栄養成分のうち、蛋白質が豊富に含まれ、また脂肪分に含まれる DHA など

・試験の概要

試験で用いた飼料及び栄養成分は表1のとおりです。マグロ加工残さは、マグロの切削工程で発生する骨や皮、切粉（赤身）となります。これを真空乾燥機で乾燥させ、乾燥物を篩にかけたものをマグロ加工残さ乾燥調製飼料としま

した。
成分の特徴として、原物中の粗蛋白質が六〇・三％、粗脂肪が二一・二％と高くなっています。また、DHA が一四・九三mg／100 g と多く含まれていました。

このマグロ加工残さ乾燥調製飼料を当所で使用している慣行配合飼料に一〇％（試験区1）及び一五％（試験区2）混合したものを、当所で飼養する交雑種豚 LWD 計一八頭に対し、肥育後期に単飼にて給与試験を実施しました（表2）。

・試験結果

（1）発育・生産性調査（表3）

試験期間中、試験豚の健康状態に問題は認められませんでした。また、今回の配合割合では、各試験区ともに、飼料に対する嗜好性の差は認められませんでした。1 日当り増体重や飼料要求率についても各試験区間で有意な差はなく、発育に問題は認められませんでした。

枝肉成績のうち、背脂肪厚について有意な差はないものの、試験区2 が最も薄い結果となりました。肉質項目のうち、PCS（ポークラースタンダード）及び PFS（ポークファットスタンダード）の値は試験区2 が、他の2 区と比べて有意差はありませんでしたが高い傾向となりました。

機器分析によりロース赤肉及び背脂肪内層の色を測定したところ、ロース赤肉の色には有意差はありませんでしたが、背脂肪内層の色は試験区2 が他の2 区と比べて a 値（赤色度）が有意に高くなりました。背脂肪内層の脂肪融点

（2）肉質調査（表4）

2 つの試験区が対照区と比べて有意に低くなり、関連して不飽和脂肪酸割合が高い結果でした。
また、肉質成分のうち、脂肪酸組成では DHA の含量が、アミノ酸ではアンセリンの含量が試験区1 及び2 で有意に高い結果となりました。

りました。

（3）飼料調製コスト（表5）

今回、調製したマグロ加工残さ乾燥調製飼料は、真空乾燥装置により調製を行いました。この乾燥調製に要する経費を調査したところ、試験飼料1 kg あたり灯油代が一三四円、電気代が二七・六円かかるという結果となりました。

（4）官能評価（表6、図1）

試験豚についてロース肉及びモモ肉を用いて、一般消費者が嗜好性を評価する消費者型官能評価を実施しました。今回は当所職員を中心とした県関係職員の方に御協力頂き、主に豚肉の魚臭の有無と嗜好度の比較を評価しました。

魚臭については、各部位、各試験区とも有意に認識されました。嗜好度を比較したところ、ロース肉は、うまみ、香り、柔らかさにおいて対照区が試験区1 に比べて有意に好まれましたが、試験区2 では対照区との有意差はありませんでした。また、モモ肉は各試験区ともうま味、かおりにおいて対照区が有意に好まれましたが、柔らかさにおいては対照区との差は

認められませんでした。

・まとめ

以上のことから、マグロ加工残さを配合した飼料給与により、豚肉に含まれる DHA 及びアンセリンの含有量が高い結果となり、当初の目的である肉質成分の特徴的な豚肉生産ができました。

一方、消費者型官能評価の結果からは、飼料に起因すると考えられる豚肉の魚臭について認識され、特徴的な面であるとともに、嗜好性に大きく影響する結果となりました。

また、飼料調製にコストを要することから、製造コスト低減や販売価格への転嫁などの販売戦略の検討などが課題として考えられます。

今回の試験では、マグロを素材に飼料利用について検討を行いました。したが今後とも地域で得られる飼料資源について、特徴の把握と飼料としての可能性について継続して検討してまいりたいと考えています。

（畜産技術センター企画研究課 白石 葉子）

表1 試験飼料の成分（原物中％）				
成分名	対照区	試験区1（10％）	試験区2（15％）	マグロ加工残さ乾燥調製飼料
水分	129	132	133	8.9
粗たんばく質	142	18.7	21.4	60.3
粗脂肪	5.9	7.5	8.3	21.2
粗灰分	4.4	4.7	4.4	7.0
Ca	0.9	1.0	1.1	1.5
P	0.5	0.5	0.6	1.0
TDN	78.0	—	—	—
DHA 含量 (mg/100g)	0.0	1.04	1.30	14.93

表2 試験区分			
区	頭数	給与飼料（原物重量比）	
対照区	6 頭（去勢3、雌3）	当所慣行配合飼料 100％	
試験区1	6 頭（去勢3、雌3）	当所慣行配合飼料 90％＋マグロ加工残さ乾燥調製飼料 10％	
試験区2	6 頭（去勢3、雌3）	当所慣行配合飼料 85％＋マグロ加工残さ乾燥調製飼料 15％	

表3 発育・生産性調査（平均値±標準偏差）				
試験区分	対照区	試験区1	試験区2	
肥育期間（日）	45.2 ± 6.9	46.3 ± 7.2	47.5 ± 10.6	
開始体重（kg）	70.8 ± 5.3	71.3 ± 2.7	70.6 ± 3.7	
出荷体重（kg）	114.4 ± 2.6	112.0 ± 3.2	111.9 ± 2.8	
1 日当り増体重（g）	970.1 ± 112.3	889.1 ± 84.1	894.5 ± 138.5	
総飼料摂取量（kg/頭）	150.0 ± 18.7	139.3 ± 13.0	134.4 ± 20.8	
飼料要求率	3.5 ± 0.3	3.4 ± 0.2	3.2 ± 2.5	
枝肉重量（kg）	76.2 ± 1.8	75.0 ± 2.7	74.8 ± 1.4	
枝肉歩留り（％）	66.6 ± 1.1	67.0 ± 1.3	66.9 ± 0.7	
平均背脂肪厚（mm）	29.9 ± 5.9	30.4 ± 6.6	25.9 ± 21.0	

表4 肉質調査（平均値±標準偏差）				
試験区分	対照区	試験区1	試験区2	
ドリップロス（％）	4.1 ± 1.5	5.4 ± 1.1	4.3 ± 0.7	
シェアバリュウ（kg w/cm ² ）	2.0 ± 0.4	1.9 ± 0.4	2.0 ± 0.3	
クッキングロス（％）	31.1 ± 2.0	32.7 ± 1.6	31.5 ± 2.8	
PCS	2.9 ± 0.4	2.9 ± 0.4	3.1 ± 0.6	
PFS	1.0 ± 0.0	1.0 ± 0.0	1.1 ± 0.2	
肉色測定				
L*（0 黒～100 白）	54.0 ± 1.2	53.9 ± 3.4	53.3 ± 1.6	
a*（＋赤～－緑）	4.4 ± 1.0	4.8 ± 0.9	4.8 ± 0.8	
b*（＋黄～－青）	9.7 ± 0.5	10.0 ± 1.1	9.7 ± 0.6	
脂肪色測定				
L*（0 黒～100 白）	81.3 ± 2.6	81.9 ± 1.5	78.9 ± 2.9	
a*（＋赤～－緑）	1.9 ± 1.1 ^{ab}	1.6 ± 0.5 ^a	3.3 ± 1.5 ^b	
b*（＋黄～－青）	7.7 ± 1.7	7.2 ± 1.7	9.2 ± 1.1	
脂肪融点（℃）	42.1 ± 1.6 ^a	37.7 ± 1.6 ^b	34.7 ± 2.9 ^b	
飽和脂肪酸計（％）	45.5 ± 1.7	44.7 ± 1.7	44.1 ± 1.6	
不飽和脂肪酸計（％）	54.3 ± 1.1	55.0 ± 1.9	55.6 ± 2.0	
DHA 含量（mg/100g）	0.030 ± 0.02 ^a	0.207 ± 0.03 ^b	0.246 ± 0.07 ^b	
遊離アミノ酸計（mg/100g）	1012.64 ± 239.3	861.64 ± 67.9	856.98 ± 134.8	
旨味系アミノ酸（mg/100g）	11.2 ± 2.9	7.5 ± 1.6	7.8 ± 2.5	
甘味系アミノ酸（mg/100g）	45.8 ± 10.3 ^a	35.4 ± 2.0 ^b	35.6 ± 4.7 ^b	
苦味系アミノ酸（mg/100g）	19.7 ± 5.0	15.7 ± 2.4	15.1 ± 4.6	
機能性アミノ酸（mg/100g）	845.6 ± 203.6	721.8 ± 84.0	722.1 ± 156.9	
うちアンセリン（mg/100g）	26.9 ± 7.9 ^a	62.6 ± 10.2 ^b	74.0 ± 22.0 ^b	
うちカルノシン（mg/100g）	790.0 ± 195.6	633.3 ± 78.2	621.2 ± 140.2	
イノシン酸（mg/100g）	177.6 ± 15.1	186.8 ± 23.8	190.4 ± 21.0	
旨味系73/酸：アスパラギン酸、グルタミン酸 苦味系73/酸：フェニルアラニン、トリプトファン、アルギニン、イソロイシン、バリン、ロイシン、メチオニン、ヒスチジン 甘味系73/酸：グリシニン、アラニン、トレオニン、プロリン、セリン、リジン 機能性73/酸：アンセリン、カルノシン、タウリン 同一項目内において異符号間に有意差あり（P<0.05）				

表5 マグロ加工残さ乾燥飼料調製コスト（飼料 1kg あたり試算）			
項目	価格	備考	
灯油代	134.0 円	灯油代 78.84 円 / ℓ	
電気代	27.6 円	電気料 16.56 円 / kWh	

（県畜産課安全管理グループ）
今後各種検査の円滑な実施について、ご協力よろしく願います。
（県畜産課安全管理グループ）
（なお、ヨロネ病の定期検査は、今までどおり二年に一回実施します。）
今後も各種検査の円滑な実施について、ご協力よろしく願います。
（県畜産課安全管理グループ）

地方競馬の収益金は畜産振興に役立っています。

川崎競馬開催日

30年4月2日(月)～4月6日(金)

30年5月14日(月)～5月18日(金)

ナイター開催

（29年十一月）の指定肉用子牛の品種区分ごとの平均売買価格は次のとおりでした。

黒毛和種 七七三、四〇〇円
交雑種 三九〇、〇〇〇円
乳用種 二五二、一〇〇円
黒毛和種・交雑種・乳用種は保証基準価格、合理化目標価格を共に上回っているため、生産者補給金の交付はありません。

なお、肉用牛繁殖経営支援事業に関しては、「黒毛和種」について、交付はありません。
（一般社団法人神奈川県畜産会）

今回の試験では、マグロを素材に飼料利用について検討を行いました。したが今後とも地域で得られる飼料資源について、特徴の把握と飼料としての可能性について継続して検討してまいりたいと考えています。

（畜産技術センター企画研究課 白石 葉子）

今回の試験では、マグロを素材に飼料利用について検討を行いました。したが今後とも地域で得られる飼料資源について、特徴の把握と飼料としての可能性について継続して検討してまいりたいと考えています。

（畜産技術センター企画研究課 白石 葉子）

今回の試験では、マグロを素材に飼料利用について検討を行いました。したが今後とも地域で得られる飼料資源について、特徴の把握と飼料としての可能性について継続して検討してまいりたいと考えています。

（畜産技術センター企画研究課 白石 葉子）

表6 官能評価結果

1 試験区 ロース 10%			
項目	嗜好度数		2 項検定
	対照区	10%	
魚臭有無	4	40	※
うま味	33	15	※
香り	33	12	※
柔らかさ	27	15	※
くちどけ	23	16	N.D.
総合評価	37	16	※
N.D. 有意差なし ※ 同一項目内において有意差あり（P <0.1）			

2 試験区 ロース 15%			
項目	嗜好度数		2 項検定
	対照区	15%	
魚臭有無	7	34	※
うま味	25	23	N.D.
香り	21	25	N.D.
柔らかさ	27	20	N.D.
くちどけ	29	18	※
総合評価	30	20	N.D.
N.D. 有意差なし ※ 同一項目内において有意差あり（P <0.1）			

【変更後（平成三十年度から）】
○乳牛の定期検査（県内を二地域に分け、二年に一回の検査）を廃止します。
・預託牛、共進会出品牛等については、預託先・取りまとめ機関・共進会主催団体等の求めに合わせ検査を実施していました。
・自主的な移動前検査を推奨していました。



図1 官能評価

3 試験区 モモ 10%			
項目	嗜好度数		2 項検定
	対照区	10%	
魚臭有無	7	30	※
うま味	33	3	※
香り	33	4	※
柔らかさ	15	16	N.D.
総合評価	34	6	※
N.D. 有意差なし ※ 同一項目内において有意差あり（P <0.1）			

4 試験区 モモ 15%			
項目	嗜好度数		2 項検定
	対照区	15%	
魚臭有無	2	38	※
うま味	26	11	※
香り	28	8	※
柔らかさ	13	16	N.D.
総合評価	31	9	※
N.D. 有意差なし ※ 同一項目内において有意差あり（P <0.1）			

平成三十年度以降の牛のブルセラ病・結核病の定期検査等について

牛のブルセラ病・結核病については、これまで乳用牛を中心とした定期検査による摘発を進めてきたことから、我が国は両疾病の清浄国宣言が可能なレベルに達していると考えられています。

そこで、今後3年間、各都道府県で実施する抽出検査により、国内の清浄性を確認し、牛のブルセラ病・結核病の清浄国であることを世界に宣言する予定です。

これを踏まえ、本県の平成三十年度以降の検査体制を次のように変更します。

【従来（平成二十九年まで）】
・乳牛の定期検査（県内を二地域に分け、二年に一回の検査）を実施していました。

・預託牛、共進会出品牛等については、預託先・取りまとめ機関・共進会主催団体等の求めに合わせ検査を実施していました。
・自主的な移動前検査を推奨していました。